

第 23 回 平取ダム地域文化保全対策検討会

議 事 要 旨

日 時：令和 5 年 3 月 2 9 日（水）午後 1 時 3 0 分開会
場 所：平取町中央公民館 1 階 大ホール

北海道開発局室蘭開発建設部
鶴川沙流川河川事務所

第 23 回平取ダム地域文化保全対策検討会 議事要旨

日 時：令和 5 年 3 月 2 9 日（水）午後 1 時 3 0 分開会

場 所：平取町中央公民館 大ホール

出席者： 遠藤 桂一 平取町長
萱野 公裕 平取アイヌ協会副会長
川奈野 栄子 平取アイヌ協会副会長
川奈野 利也 平取アイヌ協会副会長
木村 英彦 平取アイヌ協会長
千葉 良則 平取町議会議長
山崎 幸治 北海道大学アイヌ・先住民研究センター准教授

(五十音／敬称略)

- 次 第：1. 開会
2. 挨拶
3. 平取ダム地域文化保全対策検討会設置要領（案）について
4. 審議 地域文化に係る調査・検討について
5. 報告事項 地域文化調査の成果概要について
6. 閉会

資 料：会議次第

資料-1 平取ダム地域文化保全対策検討会設置要領（案）

資料-2 地域文化に係る調査・検討について

資料-3 地域文化調査の成果概要

第 23 回平取ダム地域文化保全対策検討会 議事録

1. 開会

- 事務局) 司会進行、注意事項
- 事務局) 資料の確認

2. 挨拶

- 所長) ただいま紹介にあずかりました鶴川沙流川河川事務所の〇〇と申します。どうぞよろしくお願いいたします。会議の開催にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。委員の皆様におかれましては、年度末のお忙しい中、第 23 回平取ダム地域文化保全対策検討会にご出席いただき、誠にありがとうございます。当部で建設を進めておりました平取ダムにつきましては、一昨年(2021)の 11 月 24 日に水を貯める試験湛水を開始し、昨年(2022) 2 月 13 日に最高水位に到達した後、水位の低下で 3 月 14 日に試験湛水を終了しております。その後、堤体及び貯水池周辺での安全性を確認できたことから、4 月 1 日より管理に移行しました。ダム運用にともなうアイヌ文化保全につきましては、平成 25 年に中間とりまとめを行い、それに沿って保全対策、調査検討を行ってきたところでございます。今回の検討会では、試験湛水の影響及び今年度の取り組みの様子につきまして、報告させていただきたいと思っております。この検討会でのご意見・議論を踏まえまして、引き続きアイヌ文化の保全対策にしっかりと取り組んでいくとともに、モニタリングを行っていきたいと思っております。本日はどうぞよろしくお願いいたします。以上、簡単ではありますが、挨拶と代えさせていただきます。

3. 平取ダム地域文化保全対策検討会設置要領(案)について【資料-1】

- 事務局) それでは次第に従いまして、「3.平取ダム地域文化保全対策検討会設置要領(案)」に入らせていただきます。お手元の資料 1 をご覧いただきたいと思います。今年度の主な変更点でございます。「第 3 条 検討会の構成」ということで、別表 1 の中で萱野公裕様(平取アイヌ協会副会長)及び川奈野利也様(平取アイヌ協会副会長)が、新たに検討委員会の委員となっておりますことをご報告いたします。また、第 5 条の委員の任期期間につきまして、令和 5 年 3 月 31 日までとするとなっております。ただ今、ご説明しました設置要領(案)につきまして、委員の方々からご質問やご意見等ございましたらお願いいたします。

- 事務局) はい、特段ないということですので、本日よりこの(案)を取りまして本検討会の設置要領といたします。
- 事務局) 続きまして、座長の選出に移らせていただきます。検討会の座長は、委員会設置要領第4条(2)で委員の互選と定められてございます。つきましては、委員の皆様から座長のご推薦または自薦をいただきたいと思いますが、如何でしょうか。
- 委員) 町の管理、政策全体について取りまとめを行っている〇〇委員にお願いしてはどうかと思います。
- 事務局) ありがとうございます。今、〇〇委員とご推薦いただきましたが、他にご推薦または自薦はございませんでしょうか。ありがとうございます。それでは、〇〇委員に座長をお願いするということによろしいですね。それでは、委員の皆様にご賛同をいただきましたので、〇〇委員に座長をお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。
- 委員) ただいま座長に推薦いただきました〇〇でございます。円滑な議事進行に努めてまいりますので、皆様ご協力よろしく申し上げます。

4. 審議：地域文化に係る調査・検討について【資料-2】

- 座長) それでは、よろしくお願いいいたします。本日の大まかなスケジュールですけれども、最初にこれまでの地域文化に係る調査・検討について審議を行っていただき、その次に報告事項として具体の地域文化調査の報告がございます。それでは、「4.審議」として、地域文化に係る調査・検討について事務局より説明をお願いいいたします。
- 事務局より説明—————
- 座長) 今の資料に基づきまして、事務局から説明をしていただきました。この内容等について委員の方々からご質問・ご意見等ございましたら、お受けしたいと思います。いかがでしょうか。〇〇委員どうぞ。
- 委員) 後の内容と被っちゃうかもしれませんが、何点か。対策室ということで、その前は調査室ということで調査されてきたと思うんですね。それが今、対策室という名前に変わって、ダムが供用になったのは去年からなので、これからまたいろいろ対策という

ところはあると思うんですけど。16 ページの部分で今後の進め方というのがあるんですけど、今まで調査してきたものをまとめてこの説明になっていると思うんですけど、3 段目の魚類の生息環境の保全を継続するとあるんですけど、実際どういうふうにするのか。前は流木か何かを斜めにしてやったりしたんですけど、実際それをこれからもまたどんどん増やしていくのか、対策室が調査してこういう保全をした方が良いのではないかということを受けて、開発さんが魚類の生息環境を保全するためにこういう工事をするのか、これをちょっと聞きたい。

- 座長) はい、お願いいたします。
- 事務局) はい、お答えいたします。具体的なこうしていきたいというところをお話するのはこの協議かなとは思っておりますけれども、ただ、ただ、その繰り返し繰り返しやってくるということではなく、昔のアイヌの方々がどのような川で、どのような場所でのことをちょっと深堀りしていったって、本当に伝統的な漁法だとかを再現していくというところでは、もう少し深堀りをした上で、それに伴った生物とかを引き続き話し合いとか協議しながら進めていくのが、結構、有用といたしますか。ただただ同じことを繰り返していくというよりは、少し深堀りしながら進めていければなど、私としては感じております。
- 委員) まだなんだか、いまいちよく分からなかったんだけど。僕的にはやっぱりダムができて環境が変わって、その中で魚関係もこれからまた変わっていくとかあると思うんですけど。それを受けてやっぱりきちんと、もし生態が変わっているのであれば、それに向けた報告を上げてもらってやるのがいいのでは。昔のアイヌのやったことも大事ですけど、これからのアイヌのために川や水を守っていくのも大事なことで、是非ともそういうことも考えていただきたいなと思います。それで、途中どこにも出てなかったんですけど、報告で後であるのかもしれないですけど、平取ダムの右岸側のチノミシリ削ったところ、工事が去年終わっていると思うんですけど、あれはすごく大事なことで、こういうところできちっと報告した方が良かったんじゃないかと。どういうふうにできて、後で現地視察に行くとか行かないにしても、前に〇〇委員から「削った岩をどうするか」という話もあって、それをどう使ったのかとか、削ったところが今どうなって、その後きっとモニタリングしていくと思うんですけど、遠目でしかまだ見たことないんですけど、遠目に見ると結構いい感じで、あそこは何年かすると木とかも生えてくるんじゃないかと思ったりするんですけど。そういうところのモニタリングもきちっとしながら、登れるのか登れないのか僕はちょっと分からないんですけど、近くに行けるならきちっとした準備して、2年後3年どういうふうに着葉が落ちて、それが土に還ってそこから木が生えて、10年15年後にはどういふかたちになったというこ

とも必要じゃないかなと思うんですけど、そこら辺はやってるんですか？

- 事務局) はい、お答えいたします。まずお話の中でありましたチノミシリ、そのものの場の有効活用は、昨年度の検討会で紹介させていただきまして、チノミシリそのものの岩についてはダムの下流の腹付けで活用させていただきまして、ダムと一体になって地域と守っていくような、象徴的な使い方というようなことで進めてきたところでございます。またチノミシリの部分でございますけれども、モニタリングとして、今、対策室さんの方で継続的な定点撮影ですとか、そういったことも実施して動いているところでございます。またできあがったのが昨年 10 月で、なかなか皆様にご紹介できるお時間が、今まで取れなかったというところでございますけれども、実際に、来年度については適期というか 7 月くらいで、ダムの堤体の開放を予定してございまして、それに合わせて皆様に近くに寄ってご覧いただいて、というようなことも考えていきたいなと思っております。
- 委員) もう一つは、去年竣工に向けて、フォーラムというかシンポジウムをやったと思うんですけど、僕はそこにいたので、すごく良かったなと思うんですけど。ああいうことを、これからこういう今後の進め方を広くいろんな人に知ってもらうためには、ああいう使い方もあるのかなと思うんで、是非とも毎年やるのか、何年に 1 回やるのか、続けてもらいたいなと思います。
- 事務局) はい、承知しました。そうですね。毎年なのか、というところはあるのかも分からないんですけど、モニタリングが大体終わって、今画面に出てるような取り組みを今後はどんどん展開していくというタイミングでもってですとか、いつ開催できるのかということも調整させてもらいながら、PR といいですか、こういった取り組みの紹介というのは非常に我々も必要だと感じてございますので、調整させていただきながら、展開できるように進めていきたいと思っております。
- 座長) よろしいですか。そのほか、〇〇委員。
- 委員) 一点だけちょっとお聞きしたいというか、今後の展望も含めてお聞きしたいんですけど。11 ページの方に、ノカピライウォロ・ビジターセンター活用についてというかたちで提示紹介してありますが、今までコロナ禍の中において、なかなか幌尻の登山客が制限されるというかたちだったんですけど。今年度から山開きにもう少しでなってくるわけですが、幌尻目指して来る登山客が非常に増えてくる、現実的に多くなるのかなと思っています。それで今後、多分国立公園化に向けた様々な状況にとっても、その対策もとっていただけるものと思っていますけど、特に 6 月のすずらん鑑賞会から始

まりまして登山シーズンが 9 月いっぱいぐらいまでですか。是非このビジターセンターを活用して、見て、単純に言うのと来ていただくと。アイヌ文化の紹介も結構丁寧な紹介がなされている展示がたくさんありますから、そういう意味でインバウンドに是非活用していただいて。外国人の方も多分多く来られるかなと思っていますし、その辺の取り組みというんですか。実は私の知ってる登山をする方で、ビジターセンターに寄ってくれた方いたんですけども、ちょっとわかりづらいというか、道路上に案内的な標識とかももう少しあったら、登山客を含めて、すずらん鑑賞会を含めて是非立ち寄ってもらえる、非常に貴重な施設だと伺ってますけども。それと、先ほどに戻りますけども、国立公園化に向けた取り組みもそうなんですけども、そういった整備についてもうちょっと踏み込んでやっていただければ非常にありがたいと思っていたんですけど。その辺の考え方を伺っておきたいと思います。

- 事務局) ノカピライウオロ・ビジターセンターは、もともと場所的というか思想的に、幌尻登山の方々が非常に立ち寄りやすい場所、途中にあるということころですとか、展示自体も幌尻をテーマにしているので、登山客の方々とかこれから増えていくであろう外国人観光客の方に対して、PR をしていくような仕掛けをいろいろと考えていきたいということで、ビジターセンターの入り口が分かりづらいという問題がございまして、まだちょっと看板が実はついていないので、看板のデザインとか記載する内容も決まりましたので、令和 5 年度早々に看板を設置して参るということですね、予定してございます。
- 座長) 大丈夫ですか。そのほか、〇〇委員。
- 委員) 既に検討されていることだと思うんですけど、9 ページのところ、ガマがちょっとうまくいかないことがあるということで、それは今後もうまくいくようにモニタリングを続けていただければと思っております。もう一つ気になった点、もし既に取り組みがされていれば教えていただきたいんですが、外来植物のオオアワダチソウの群落が広がっているとあります。意味環境が変わっていくと、それまでの在来の生態ではない、いわゆる外来の植物とか動植物、いろんなものが入ってくる可能性もあると思います。新しく入ってくる外来の動植物をどういうふうに扱っていくのか、その辺はどういう感じでしょうか。コメントでも結構です。
- 事務局) オオアワダチソウについては、乾燥したところに生えやすいと一般的に言われているということでございます。ダムを作ってその湛水をするといったことに対しての環境変化がなぜ起こるのかを把握する調査は毎年行いまして、環境の変化によって変わっていく植生の部分をまずしっかり調査するということと、外来植物については対

策が必要だと判断がなされるというところで、それぞれオオアワダチソウとか、あとはオオハンゴンソウみたいなも見られるというパターンも結構多くてですね、そういったものに対しては対策方法を検討して行って、望むべく姿になるような対策を続けて検討していきたいと思っております。

- 委員) ありがとうございます。多分こういう外来植物とかは、専門家が既にたくさん、いろんなところにいらっしゃると思いますので、そういう人たちの助言をいただきながら進めるのがいいかなと思っております。
- 座長) はい、よろしく願いいたします。それでは他に、いらっしゃいますでしょうか。よろしいですか。それでは審議はここで終了させていただきたいと思っております。

5. 報告事項：地域文化調査の成果概要について【資料-3】

- 座長) 次に5の報告事項といたしまして、地域文化調査の概要について、文化保全対策室より説明をお願いしたいと思います。
- 対策室より説明—————
- 座長) はい。ありがとうございました。今、各分野ごとに説明をいただきましたけれども、通してご質問・ご意見がございましたら、お受けしたいと思います。〇〇委員。
- 委員) この調査結果についての活用といいますか、共有はどうかされているのか、もしくはどうしていこうかっていう何かがあるならば、教えてほしいなと思えました。特に2-3の分野と4の分野でデータベースということでご紹介があったんですけど、こういうものがどこで見れるようになっているのか。もしくは、どこかで見れるようにするのかとか。あとは、2-1の分野のカヤ類モニタリング調査だったり、ピパの観察の結果とか、植樹してモニタリングしている結果というものが、何か出版物として1冊で出るのかとか、単年度で出るのかについて、お伺いしたいです。平成18年に総括報告書というのが出てたと思うんですけど、あの内容ってすごく充実していて、今でもとても価値ある報告書だなと考えているので、何かそういった形で出版されると嬉しいなという質問です。
- 座長) はい。いかがですか。

- 対策室) はい、ありがとうございます。これまでのやってきたことの活用っていう質問だったと思うんですけど、そういった活用についてはこちらの課題として考えてございまして。例えばいろんな分野がありますので、その分野ごとの活用方法とかできれば良いんですけど、ただ2-3の動物のデータベースの関係につきましては、まず作っていることを今やっています、今回2月のシシリムカアイヌ文化祭の中でタッチパネルを使って子供たちに好評だったという報告もありますので、良かったと思いますけど、それをまたビジターセンターがありますので、タッチパネルできるパソコンもありますので、そういったところからまず活用していければ。データベースに関しては、まず、ビジターセンターがベースとなって活用していけるかなとも考えております。あと、カヤとかモニタリングしながらやっているんですけど、そういった取り組み自体細かく報告書として書かれておりますので、そういったどういうふうに活用するのかというのは課題として我々も捉えておまして、見やすいかたちで出していく、いろんな蓄積してきたものがあるので、見やすいかたちで整理していく作業がまだやり切れていないので、これからそういった整理をして、分かりやすいかたちで広げていく事を考えていきたい。実際、具体的にどうしていくというところまではないんですけど、分かりやすいかたちで整理していくことが課題になっています。
- 委員) はい、ありがとうございます。
- 座長) その他ございますか。はい、〇〇委員。
- 委員) 19ページのピパの話なんですけれども、中が砂利ばかりで刺さらないから、砂入れたりて、砂をかいたりとかって、僕も若い時には二風谷にあるピパウシっていう沢にピパは見なかったんですけど。あの沢は今は、きっと水路の併合かなんかで、元々のピパウシの沢は確かなくなっているんじゃないかなと思っているんですけど、砂だったんだよね。砂気の沢で、すごくきれいな沢で。この砂利、この沙流川地域のピパの状況は1回も見たことはないけども、向こうの南の方のやつは砂利の所に砂が混じっていないところがあるみたいなんだけど、砂だけじゃまずいのかな。ピパウシはちょっと火山灰の感じのその沢だと思うんですね。どんなもんか聞きたい。
- 対策室) このピパはですね、去年の11月に採ってきて、それから飼育している段階なんですけど、まずはしっかり生育しているということで、この時の水とか、あと砂等は採捕箇所と環境を変えないようにやっております、実際最終的にはピパウシのところで育てただけであればというのがあるんですけど、砂の関係とかは、まずピパに負担を与えないように同じような環境を維持しながらいろいろ試していければ、と考えていますけども。実際担当している者がおりますので、担当者のほうから補足あれば。

- 対策室) (担当者)カワシンジュガイ、ピパの特性として、川底に突き刺して流れてくるプランクトンや有機物を捕食するという特質がありまして、やはり体を支える関係上、石や砂、砂だけでなく石も礫とか若干混ざったような川底が好む傾向にあるみたいでして。ですけど、砂だけの状態がダメというわけではなくて、採捕箇所を観察した時には砂の状態の所に住んでいる個体もいたんですけど、やはり石と砂が混ざった川底の方が群をなしていたというふうに観察できました。それは飼育試験の様子、試験的にですけど、川底の水路の半分を砂だけの状態にして、もう半分を石と砂を混ぜた状態にして、1ヶ月くらい観察したんですけど、やはり石と砂を混ぜた川底の方にピパが結構集まっているという状態を観察することができました。ただ今回、観察を始めて間もないので、今後の飼育状況を見ながらそういうことも意識しつつ、観察していきたいと思っております。
- 座長) その他、ありますでしょうか。よろしいですか。それでは、報告事項について、どうもありがとうございました。それでは、今日用意された審議・報告事項についてはこれで終了になりますが、委員の皆様もその他ございましたら、お受けしたいと思いませんけども、よろしいですか。はい、それではどうもありがとうございました。

つたない座長ということで、ちょっと最後に一言申し上げさせていただきたいと思えますけれど。開発局の方からも、今後の検討で示されたということで今年度平取ダムの竣工をしまして、沙流川総合開発事業としては一つの区切りがついたということでもございまして。この間、回数が示す通り23回という検討会が行われまして、本当にアイヌ文化に関する調査研究については、非常に多くの貴重な蓄積ができたと思っております。こういうものを是非まだ深く進化させるといいますか、是非これからの期待するところが大きいということで、まだまだモニタリング等も事業地内ぐらいの沙流川の地域全体でのことも考えていただけるということですので、その辺の取り組みもこれからも大いに期待したいということで、座長としての一言とさせていただきます。ありがとうございました。本日用意された議題はこれで全て終わりましたので、事務局にお返しをさせていただきます。

6. 閉会

- 事務局) ○○座長ありがとうございました。事務局といたしましても、本日いただいておりますご意見等を踏まえながら、今後とも委員の皆様のご指導いただき、ご相談させていただきながら、調査・検討の方を引き続き進めてまいりたいと考えてございます。ご協力の方、よろしく願いいたします。また、本日お配りしております資料につきましては、室蘭開発建設部のホームページに掲載する予定でございます。それでは、以上をもちまして、第23回平取ダム地域文化保全対策検討会を閉会いたします。本日はどうもありがとうございました。

以上